

令和5年度 学校経営報告

東京都立府中工科高等学校
校長 鈴木 誠

今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動の目標と方策

<p>1 基礎学力を確実に定着させる教育の推進 (学習指導)</p> <p>一人1台端末を用いて、調べ学習を行ったり、スポーツ実技を撮影して振り返ってみたりするなどして、生徒の学習意欲や能力の向上を図る指導の工夫に取り組み、活用の場面が多くの教科に広がりを見せ、生徒が自らの意見を考えまとめ、発表したりする学習することができる教育環境が定着してきた。</p> <p>課題解決型学習 (PBL) については、文部科学省教育課程実践協力校として、大学関係者による校内研修での講義・演習や、研究授業の実践など、教育課程調査官による助言を得ながら、全学科で工業情報数理に導入した。</p> <p>普通科目においても、我が国の文化や歴史、ことばの力や、数理的な見方や考え方、コミュニケーション能力を育むための指導の工夫がなされ、知識充填型の学習形態から、学ぶ楽しさの伝わる授業が展開されている。</p> <p>今後は、教科内での目標や指導、観点別評価を行うための項目を事前に共有し、授業の明確な目標の到達度 (ルーブリック) を教員が生徒に示して共有し、生徒に見通しが分かる授業を展開することで、「学ぶ喜び、できる喜び」など、主体性を育み、探究する学習意欲を醸成する取組を一層拡充し、基礎学力の定着を図る必要がある。</p> <p>なお、学習到達度の評価については、生徒自身の取組や小テストの結果等を共有できるよう、「学習の見える化」について教育のDX化と併せて進めるなどして、教員、生徒や保護者等が取組成果を共有していく必要がある。</p>
<p>2 規律ある生活指導と健全育成の充実 (生活指導)</p> <p>登下校時の自転車ヘルメットの着用について、粘り強い指導を展開し、命を守ることの大切さ、交通ルールやマナーについての醸成を図ることができた。時を守り、場を清め、礼を尽くす指導については、自ら進んで挨拶する生徒がほとんどであり、一人当たりの遅刻回数も昨年と比べて低減している。今後は、実習後の清掃等のほか放課後の美化・清掃活動等も活用して、心落ち着く教室環境を育む5S (整理・整頓・清掃・清潔・躰) 教育についてより一層の徹底を図り、社会生活における基本的なルールやマナーを体得できるよう指導を行う。</p> <p>防災教育については、関東大震災から100年の節目に、防災教育研究指定校として、避難所設営訓練や消防庁VR起震車での災害シミュレーション体験のほか、防災士は20名が合格し、上級救命講習は約300名が修了するなど、多くの成果があった。次年度は、校内の避難訓練に加え、修学旅行で神戸を訪問し、国営災害センターでの防災体験学習のほか、東京消防庁や水道局など関係機関と連携した防災教育など、引き続き取り組むなどして、地域社会の一員として貢献できるよう自助・共助の心を育成する必要がある。</p>
<p>3 生徒一人ひとりの能力を伸ばす教育の推進 (進路指導) (資格取得推進)</p> <p>生徒の希望進路実現を図るため、資格取得を推進できるよう授業等を工夫している。放課後や長期休業中の補習・補講を充実させ、国家資格である第二種電気工事士の合格者数は95名に達し、高校合格者ランキングで全国第2位、第一種電気工事士の合格者数も過去最高の22名となった。</p> <p>就職や進学に関する指導については、生徒一人ひとりの自己実現に向けて担任が十分に面談を行い、進路指導部と連携をするなどして取り組んでいる。社会の最前線で働く企業人 (自動車メーカーのプロダクトデザイナー) を招聘し、ものづくりの面白さや未来の社会に技術やデザインを総合的に提案する授業を推進することで、生徒の望ましい勤労観や職業観を育成する取組も導入することができた。</p> <p>今後は、職業適性検査・進路講話や先輩の話聞く会等に加え、キャリアパスポートの活用や、何のために働くのか、どのように学んだ技術が生かせるかなど、仕事について考える学習活動を取り入れるなどして、学年、学科、教科の連携を一層深め、3年間を見通して作成した系統的なキャリア教育の充実を図る必要がある。</p>

4 地域や企業等と連携した教育の推進
むさし府中商工会議所と連携し、府中テクノフェアに参加するとともに、地元企業と連携した2学年のインターンシップのほか、外資系企業や東京都情報産業協会、上級専門学校と連携した東京P-TECH（高度なIT人材の育成）に向けた取組を開始した。また、府中市教育委員会の協力を仰ぎ、近接する、若松小学校、浅間中学校及び府中工業第二中学校と連携し、ネット利用のマナー講習会、次世代モビリティの体験学習会、高校説明会や上級学校訪問など、地域に開かれたものづくり拠点校としての役割を果たしている。
5 健康づくりの推進
日頃の授業においては、一人ひとりのスキルに応じた、体力向上に努めるとともに、体育祭やロードレース大会、球技大会など、集団活動を通して学ぶ楽しさを展開している。保健講話では、多様性や性についての理解を深めるとともに、悩まず相談できる場があることや制服の自由化やこころの健康に向けた教育環境の整備を図った。 発達障害をはじめ、支援を要する生徒に対する理解を深めるための校内研修の開催やカウンセリング委員会を定期開催とし、心に不安や悩みを抱える生徒に対しては、情報の共有化に取り組み、YSW（ユースソーシャルワーカー）の派遣要請や、特別支援教育心理士の巡回指導などを活用し、支援を要する生徒に対し組織的に対応した。
6 広報活動・募集対策の推進
学校の魅力発信に努め、府中市内中学校全校訪問、ホームページの更新や学校説明会の人数制限緩和、説明資料の改善など募集対策に工夫を講じ、新学年定員を満たすことはできなかったものの、昨年より入学予定者数を7名増加させることができた。今後は、工科高校を広報するドリームフェスタに加え、パンフレットや見学会、個別相談会など、これまでの広報活動や魅力発信の方法についての見直しを図り、更なる改善に努める必要がある。
7 自律的な学校経営の推進（組織的な体制）
西部学校経営支援センターと連携を密にし、教職員のキャリアプランの向上や職務理解、マネジメント能力の向上を図るための諸事業に参加させるなどして、学校運営を行う校内体制の構築に取り組んでいる。 今後は、男性職員の育児休業取得推進や教職員一人一人の状況に応じたライフワークバランスの実現に向けた取組を加速させるとともに、経営企画室職員の積極的な学校経営に対する参画を促し、経営企画室職員と教員とが連携を図りながら校内体制をより一層高め、組織的な対応を行うなどして、自律的な学校づくりを目指していく。

(2) 令和4年度の数値目標の実績

数値目標	令和4年度 実績	令和5年度 目標	令和5年度 実績
① 就職内定率	100%	就職希望内定者100%	99%
② 大学進学率	95%	90% (大学進学希望者比)	95%
③ サポーター企業の活用	10社	10社	12社
④ 資格取得者数			
ア 基礎製図検定	ア 33名	ア 40名	ア 32名
イ 機械検査	イ 21名	イ 5名	イ 10名
ウ 第2種電気工事士	ウ 128名	ウ 100名	ウ 95名
エ 第1種電気工事士	エ 21名	エ 20名	エ 22名
オ ITパスポート	オ 4名	オ 5名	オ 4名
カ 工事担任者 (DD3種)	カ 6名	カ 10名	カ 0名
⑤ 国家資格等 5つ以上 資格獲得者数 (卒業時)	116名	120名	123名

⑥ 部活動加入率	82.3%	85%	80.8%
⑦ 遅刻者数	2264	2000	1586
⑧ 特別指導件数	5件	5件	4件
⑨ ホームページ更新	週3.6回	週3回	週3.5回
⑩ 図書館貸出冊数	2658冊	2000冊	2069冊
⑪ 学校説明会参加人数 (中学生・保護者合計)	830名	900名	940名
⑫ 入学者選抜応募倍率			
ア 推薦入学	ア 1.4倍	ア 1.4倍	ア 1.3倍
イ 学力検査	イ 0.94倍	イ 1.1倍	イ 0.99倍
⑬ 退学者の減少(対全生徒比)	1.4%	0.4%	0.2%
⑭ 学校満足度(肯定的回答)			
ア 生徒	ア 74.6%	ア 80%	ア 74.6%
イ 保護者	イ 74.0%	イ 80%	イ 74.0%
⑮ 服務事故・いじめゼロ	0	0	1
⑯ 月残業60時間超	5名	5名以下	3名